



喜界島ジオパーク(構想)
Kikaijima Geopark (Plan)

月刊ジオパーク 令和6年4月号

喜界島ジオパーク推進協議会事務局

統括専門員 鈴木倫太郎

三島村・鬼界カルデラ

ジオパーク

鹿児島県内には、火山に関係する3つのジオパークがあります。桜島・錦江湾ジオパーク、霧島ジオパーク、そして今回ご紹介する三島村・鬼界カルデラジオパークです。先日、県内のジオパークの取組を学ぶべく、事務局員一同が三島村へ視察に赴きました。

薩摩半島の南約50kmに位置する三島村は、竹島・硫黄島・黒島の3つの島から成る村で、人口は令和6年4月1日の時点で331人です。村は陸続きではないため、役場は三島村の中にはなく鹿児島市内のフェリーふ頭のすぐ近くにあり、役場に行くためにはどの島からもフェリーに乗らなくてはなりません。そんな離島の三島村は、平成27年にジオパークに認定されました。日本で最も人口が少なく、そして最も南にあるジオパークです。

竹島と硫黄島は、鬼界カルデラという7300年前に世界最大規模の噴火



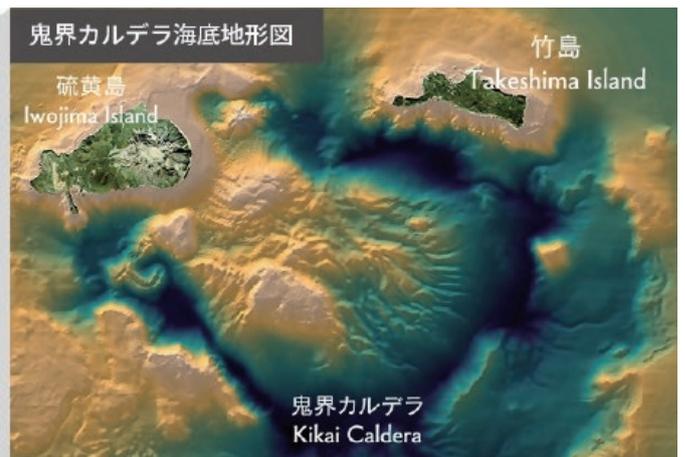
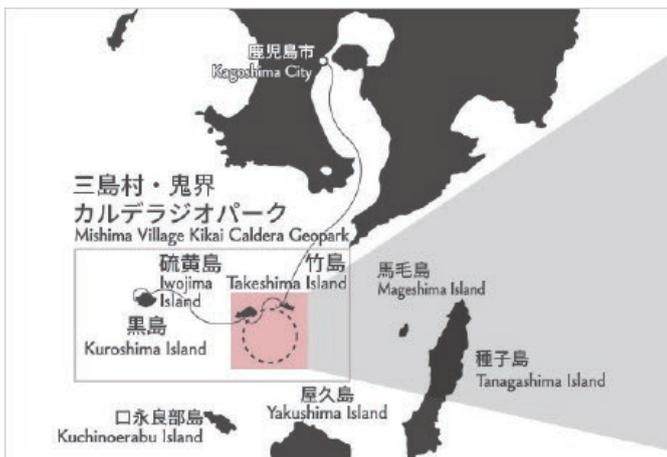
長浜港

できた噴火口の縁にできた島です。その火口の大きさは、なんと直径約20km！喜界島が5個分入る広さです。今でも硫黄島の硫黄岳は常に噴煙をあげ、長浜湾では岩石の成分を含んだ地下水が湧き出して湾内を赤褐色に染めていきます。このような活動する火山の様子を目の当たりにすると、三島村は生きた火山のジオパークであることを実感でき

ます。硫黄島では常に噴出する火山ガスで葉物野菜が育たないなど、火山島ならではの苦労もあるようですが、島で採掘できる硫黄で線香花火を作る体験ができるなど、火山の恵みを利用する面白い取り組みもありました。

三島村は、なぜジオパークを目指したのでしょうか。村役場のご担当のお話によると、三島村は人口減少が大きな課題となっており、「ジオパークの活動を通じて、三島村の人口を増やす」ことをジオパーク活動の目的に掲げています。村ではジオパークの活動を通じて、火山の恵みによる資源を活かしながら一緒に地域を盛り上げ、三島村で持続可能な暮らしを目指す方に移住してほしいと願っているそうです。お話を伺い、三島村ではジオパークを通じて離島ならではの課題の解決や、島の将来に活かしたい！という明確な意図を感じる事ができました。

私たちが目指す喜界島ジオパークも、ジオパークの活動を通じて喜界島の課題を解決し、喜界島を盛り上げたいと考えています。視察を終え、私たちもジオパークの大先輩、三島村のように喜界島の将来のために頑張っていく気持ちを新たにしました！



三島村・鬼界カルデラジオパーク提供